

小中連携

清瀬市では小中連携教育を進めています。清瀬中は、第八小学校、清瀬小学校とグループを組み、取り組んでいます。本グループでは、育てたい児童・生徒像として、

- ①知識や技能を確実に身に付け、活躍できる児童生徒。
- ②自他の生命や人権を尊重し、多様性を受け入れて判断・行動できる児童・生徒。
- ③地域の一員として自覚と責任をもち、地域へ働きかけることができる児童・生徒。

の目標を掲げ、推進しています。11月6日には、清瀬小学校における授業参観を予定し、第八小、清瀬中の教員が、連携をテーマとする清小の先生方の授業を参観します。

さて、連携において障壁となることがあります。それは、教員がお互いを知らないということです。知らない者と知らない者では連携は生まれません。そこで、清瀬中において生徒たちが人間関係づくりの援助のために取り組んでいる「構成的グループエンカウンター」を、3校の教員で体験してみようと夏休みに企画しました。構成的グループエンカウンターとは、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法です。エクササイズを通して、自己理解、他者理解、自己主張、自己受容、信頼体験、感受性の促進をしていきます。



二人組からスタートして、エクササイズで盛り上がりながら、4人組 6人組・・・と人数が増えていきました。先日、小生は、帰りのバス停で、この時に知ることができた小学校の先生を発見し、声をかけることに成功。しばしの会話をはずませました。

10月6日に清瀬小学校で運動会を開催しました。その運動会のお手伝いに清瀬中の生徒が参加したのです。1年生から3年生まで40名ほど希望者が集まったのですが、当初の予定である5日開催は雨で実現せず、6日に。6日は3年生の修学旅行出発日ということで、1、2年生のみの参加となりました。

ラインの修正、道具の出し入れ、招集、椅子の脚ふきなど多岐に渡りお手伝いすることができました。



生徒同士の正に小中連携ですね。実は夏休みにも小学校の学習教室のお手伝いをしていました。

生徒と児童の交流も進んでいます。中学生の姿をみて「あんなお兄さんやお姉さんになりたい」と感想を述べる小学生がいたそうです。小中連携を押し進めるにあたって、生徒と児童、教員同士の

しょっちゅう連携 は力となります!!

